

工事の げんば 現場より

今はこんな様子だよ。



12月3週目

臨春閣・旧東慶寺仏殿に引き続き、月華殿も大規模保存修理工事が始まりました。まずは耐震補強工事のための内部の解体、そして安全に屋根葺替工事などの工事作業が行えるように足場を作り周囲を囲む「素屋根」を建設していきます。月華殿までの通路は細く段差がある道なので、重たい資材や道具などの運び込み、廃材の運びだしに機械や道具は使えません。重たいものを担いで階段を何度も往復する重労働が続いています。



▲ 取り外しできる障壁画パネルと襖は、取り外して丁寧に梱包し、安全な箇所に移送しました。



▲ 壁に貼り付けられていた障壁画は剥がして取り外しました。



▲ 障壁画の下の漆喰壁と、その他の聚楽壁を取壊しました。壁は伝統的な「木摺壁」でした。

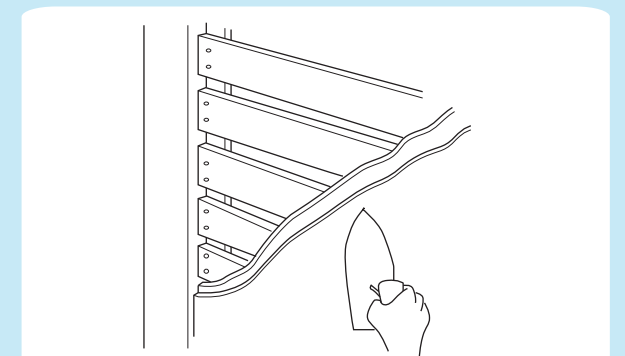


▲ 畳を取り外しました。一時的に別の場所に保管します。



▲ 畳の下の床板の一部や敷居の一部も解体しました。

木摺壁とは？



薄く幅の狭い木の板（＝木摺）を隙間を空けて並べ壁の枠に止めて、その上に土や漆喰など壁材で塗りこめた壁



▲ 臨春閣前の広場までは車輛で運搬しました。園路の樹木を傷つけないよう、車幅に要注意です。



▲ 臨春閣前の広場からは手で運ぶしか方法がありません。重たく高張る道具や材料を何往復も運びます。



▲ 運び込んだ資材で、工事を円滑に進め、建物を守る役割も果たす「素屋根」を建設します。